

# 東日本交流プラットフォーム創出による東日本の活性化PJ

## －No.1 さいたま市－

### 【事業の目的】

本市の持つ“交通の結節点”という拠点性を活かし、「ヒト・モノ・情報」が集約する東日本の交流のプラットフォームを創出し、東日本地域との広域連携を加速化することで、交流人口の拡大・対流の促進を図り、本市のにぎわい創出並びに東日本地域の地方創生を実現します。

### 【事業の内容】

東日本の玄関口である大宮駅至近の場所に、東日本各都市の多様な「ヒト・モノ・情報」が集まる交流のプラットフォーム「（仮称）東日本連携支援センター」を設置し、地方創生に資する「シティプロモーション」、「ビジネスマッチング」、「交流機能」を展開することで、交流人口の拡大や企業間取引の増加などにつなげていきます。（詳しくは参考資料参照）

### 【事業年度】

平成28年度～平成32年度（地方創生推進交付金 先駆タイプ（5年））  
※推進交付金終了後も、継続実施を検討。

### 【予算額(千円)】

平成30年度予算額 300,947千円

平成28年度～平成32年度までの見込予算額 670,146千円

※地方創生推進交付金実施計画上の予算額を記載

### 【財源】

地方創生推進交付金（平成28年度～32年度 先駆タイプ）、一般財源

### 【事業実施に至った背景・経緯】

人口減少に伴う市場の縮小等に対応し、地域が持続可能性を有する社会を実現するには、市域を越えた連携を「広域」かつ「幅広い分野」で実施すること

が必要不可欠です。その中で、本市では、「東日本の玄関口」、「交通の結節点」といった本市の強みや優位性を活かし、本市のみならず東日本地域の地方創生を実現するため、広域連携による地方創生を推進しています。平成 27 年 10 月 26 日に開催した、東日本地域の自治体首長による「東日本連携・創生フォーラム」において提案され、平成 30 年度末の開設を目指しています。

## 【事業のPRポイント】

新幹線で繋がる東日本の各都市との連携を推進するため、平成 27 年度から、各自治体首長等が一堂に会した「東日本連携・創生フォーラム」を開催し、県域を越えた、よりダイナミックな広域連携を進めています。

「東日本の玄関口」、「交通の結節点」という強みを活かし、“東日本地域の交流人口の拡大”、“過度な東京一極集中の是正”を目指して、本市のみの活性化だけでなく、東日本地域の地方創生につながる“利他”の取組として、本事業を実施しています。

さらに、大宮駅周辺地域の民間事業者が中心となり、東日本地域との繋がりを深めながら魅力あるまちづくりを進めるため、東日本連携推進協議会が設立され、官民協働で地方創生に取り組んでいます。

## 【事業実績・成果・今後の展開】

（仮称）東日本連携支援センターの開設に向け、機能検討、設計を行いました。

また、センター開設前の実証的事業として、以下の事業等を実施しました。

- ・軒先マルシェ

百貨店の軒先で東日本の商材を販売する“軒先マルシェ”を 7 回実施しました。

- ・東日本の商材マッチング支援事業の実施

東日本の地域文化を発信するイベント「盛岡ナイト」「里山・里海ナイト（富山県氷見市・南砺市）を開催しました。

今後については、平成 30 年度末の開設に向け改装工事等を行い、開設後はセンターにおいて上記事業の実施や新たなコトおこし等を行っていきます。

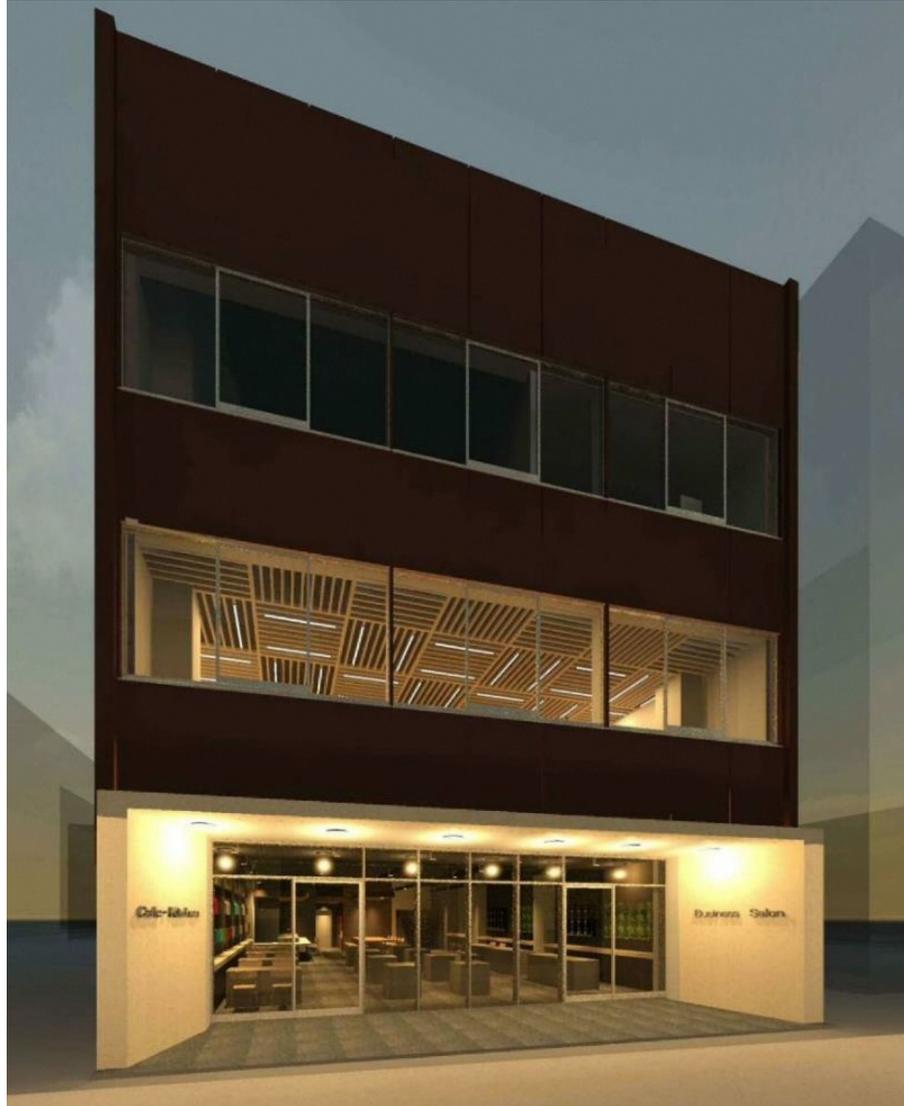
## 【参考資料】

（仮称）東日本連携支援センター参考資料

〔 連絡先 〕

経済政策課 経済企画係 048（829）1362（内線4566）

# (仮称) 東日本連携支援センター—参考資料



# (仮称)東日本連携支援センターの導入機能と効果

東日本の各地域が交流するプラットフォームを対流拠点である大宮に設置することで東日本連携を加速。  
さいたま市・連携都市にとっての地方創生を実現する。

場の役割

東日本連携都市の多様な「ひと・もの・情報」を集積し、発信し、交流を活性化させる。

期待する効果

さいたま市・大宮駅前の  
新たな賑わいの創出

東日本連携都市の魅力を  
まとめて発信する

東日本連携都市への  
人の流れをつくる

東日本連携都市の  
産業を活性化する

ユニークな飲食コンテンツの提供による  
カフェの魅力づくり

新たに生み出した新商品やプロジェクトの  
紹介 / テストマーケティングなどの場として提供

地方創生事業の  
新たなパートナー獲得のきっかけに

導入機能 A

## シティプロモーション

連携地域の魅力的な「ひと・もの・情報」を発信することで、広く人々に各地域へ関心を持ってもらうきっかけを生み出し、観光誘客、特産品のプロモーション、UIJ ターンなどの移住を促進する。

導入機能 C

## 交流機能

当センターを訪れた地域住民・観光客・ビジネスマン等と連携自治体の人々が出会いや交流を楽しめる場づくりを通じて、シティプロモーションとビジネスマッチングの機能を高める。

導入機能 B

## B to B

北海道、東北、信越、北陸、北関東及びさいたま市の中小企業・ベンチャーなどこれまで出会うことのなかった企業同士のマッチングを行い、新産業創出や商流の新規開拓などを加速させる。

飲食空間における  
出会い・交流をきっかけとした  
地域の新たなファン獲得

当センターから誕生した  
新産業やプロジェクトの打ち出し

簡単な打ち合わせなどでのカフェ利用  
ビジネスイベント利用（特に食に関するもの）

# (仮称) 東日本連携支援センターの運営事業のイメージ

シティ  
プロモ

## シティプロモーションの 展示企画・情報編集サポート

シティプロモーションスペースに自治体が情報発信を希望する内容を受け、相談を重ねながらより魅力的に発信するための展示演出方法などのサポートやアドバイスを行う。



シティ  
プロモ

BtoB

## 季節やトレンドを鑑みた 各種イベントの企画・運営管理

特産物の旬や地域の行催事などのシーズンに合わせたイベント / キャンペーンなどの企画調整を連携地域担当者や行い、運営管理する。そのほか、センター主催のイベントについては自ら企画立案し、運営を行う。



シティ  
プロモ

BtoB

## センターの活動や成果を発信する 広報誌やWEBサイトの運営

センターにおけるイベント情報やシティプロモーションを展開している自治体の紹介、ビジネスマッチングの成果や進行中のプロジェクトの情報をまとめた広報誌やWEBサイトによる発信を行う。



BtoB

## BtoB 利用サポート オフィス用品レンタルなど

コーディネータ、商工会議所、金融機関と連携したビジネスマッチング支援。プロジェクトなどオフィス用品の貸し出し、プリントサービスなど。テストマーケティング、商談会などの実施。



BtoB

## 連携地域の魅力を積極的に取り入れながら 交流を促すカフェ運営

季節ごとにテーマなどを設定し、連携地域とコミュニケーションしながら、旬の食材や郷土食などをメニューに取り入れたカフェ運営を行う。



## 東日本連携ブランドの 新たな商品・サービスを共創するプロジェクト

東日本連携により各地域の魅力を融合させた新たな商品やサービスの創造に取り組むプロジェクトを展開する。参加者は各地の自治体や商工会議所、青年会、学生、クリエイターなどの有志で構成するなど。



参考プロジェクト：  
経済産業省関東経済産業局  
「絹のみち広域連携プロジェクト」